

## 引用文献

1. Count Robert de Montesquiou (1855ー1921) 詩人、唯美主義者。  
Jean-Michel Nectoux, GABRIEL FAURÉ, His life through His letters, J. A. Underwood  
訳 1. 25～27, P. 200, Marion Boyars, London, 1984.
2. Princess Edmond de Polignac (1865ー1943)、歌手、Edmond de Polignac と再婚<sup>1893</sup>。  
この歌曲集以外に「涙」Op. 51ー1を献呈される。Jean-Michel Nectoux, Op. cit., P. 357.
3. Amelie et Ernest Duez、画家、マネの義弟。17世紀のイギリス教会主教、聖キュズベルトを崇める三枚続き祭壇画を描く。ルーブル美術館蔵。アメリーは「朝の歌」Op. 6ー1を献呈される。  
Jean-Michel Nectoux, Op. cit., n. 5, P. 91.
4. Henriette et Roge Jourdain、画家。ロジェは「曙」Op. 39ー1、「ノクターン」Op. 43ー2、「バルカロール」Op. 42ー1を献呈される。Jean-Michel Nectoux, Op. cit., n. 3, P. 97.
5. P. Fauré-Fremiet, GABRIEL FAURÉ, Maître de la Musique ancienne et moderne, 1. 21～24, P. 51, Éditions Rider, Paris, 1929.
6. Jean-Michel Nectoux, Op. cit., 1. 10～14, P. 157.
7. P. Fauré-Fremiet, Op. cit., 1. 3～4, P. 52.
  - ・楽譜はGabriel Fauré, 20 MÉLODIES, III<sup>me</sup> recueil, P. 29～52. J. Hamelle, J. 5469 H.
  - ・詩テキストはOeuvres poétiques complètes de VERLAINE, P. 115～6, 120, 191, 205, Gallimard, 1962.

## 参考文献

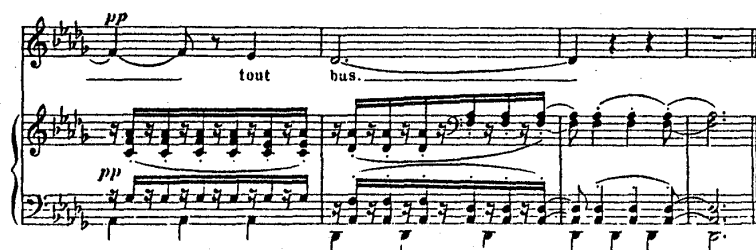
- ・VL. Jankélévitch, FAURÉ ET L'INEXPRIMABLE, De la musique au silence I, P. 110～129, Plon, 1974.
- ・F. Gervais, Étude comparées des langages harmoniques de FAURÉ et de DEBUSSY, La revue musicale, P. 21～90, Richard-Masse, 1971.
- ・F. Gervais, Op. cit., Exemples musicaux, P. 23～122.
- ・E. Veuillermoz, Gabriel Fauré, P. 99～108, Framarion, 1960.
- ・R. Orledge, Gabriel Fauré, P. 77～91, Eulenburg, London, 1979.
- ・福井栄一郎、「フランス歌曲について」芸術的世界の論理、P. 96ー107、京都大学美学美術史学研究会編、昭和47.
- ・斉藤磯雄「フランスの詩と歌」P. 99～122、P. 185～222、ダヴィッド社、1955.
- ・Ch. ケックラン「和声の変遷」清水修訳、P. 21～109、音楽之友社、昭和56.
- ・鈴木信太郎「フランス詩法」下、P. 20～81、白水社、1970.
- ・「ヴェルレーヌ詩集」鈴木信太郎・河上徹太郎訳、P. 111～172、世界文学体系43、築摩書房、昭和37.

## 譜例18



第15詩句は $\text{Si b m}_7/\text{do Do}_7 \text{La m}_7 \text{Fa}^1 \text{Ré}^2_7$ 上で、同詩句第7音節からは切分音のリズムに戻り、伴奏高音部がジグザグ音型旋律で下降する。第16詩句は $\text{La b}_7 \text{Do m}_7-5/\text{lab Ré}^2_7 \text{La m}_7 \text{Si m}_7^3 \text{Ré}^2_9$ 上に、第17詩句は $\text{La b}_7 \text{Mi b m}_7/\text{lab Do b}^1 \text{Ré b m}_7 \text{Sol b}_7 \text{La b}_7 \text{La b}_{\text{aug}}^2$ 上に、第18詩句は $\text{Ré m}_7-5 \text{Si b}_7^2 \text{Do}_7^2/\text{lab Do dim}/\text{lab Fa m}_7^1 - +_2 \text{La b Ré b}$ 上に、夕べが静かに訪れることを暗示し、この歌曲を閉じる(譜例19)。

## 譜例19



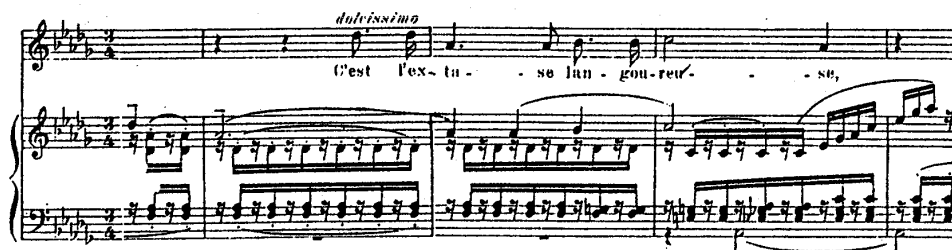
## Ⅲ. おわりに

前記Ⅱの各曲分析の結果、フォーレの音楽語法は、伝統的な機能と声 $\text{V-I}$ を土台に、教会旋法的旋律とそのための和声。それは変化音を適宜絶妙に使い、和音機能を弱めその性格を和らげた。変化和音として用いる場合は、原形より転回型、未解決七の和音連続、付加和音など、これらによる和音連結が、旋律的和声 *Harmonie mélodique* を発展させた。曲集としての関連は、上記の変化和音による経過的、一時転調、変格終止 $\text{IV-I}$ 、 $\text{II-I}$ 、偽終止 $\text{V-IV}$ 、準固有和音調などさまざまなカデンツにより響きをより柔らかく豊かにした。第1, 2, 5曲の3連音符を含んだ旋律、第3, 4, 5曲のゆるやかなジグザグ旋律下降に、彼独自の語法を緻密に詩と溶け合わせ、詩のもつ陰影に新しい香りを融合させた。

正にヴェルレーヌの「何よりも先ず音楽を」と詩ったように、象徴詩の言葉のもつ意味より、それに内在する音の響きを、フォーレは忠実に彼独自の音感覚で、精緻優麗な近代フランス歌曲 *mélodie* に創った。

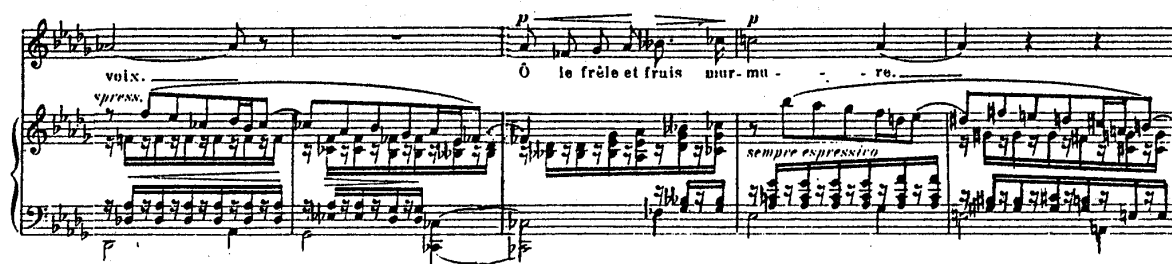
詩句が「物憂げな」langoureuseに軽やかに歌われる（譜例16）。同詩句を接続する断片が、伴奏高音部に分散和音上行型で、第2詩句へは $La\flat_7$ 、第3詩句へは第iii音fa、第vii音doを半音下げた $Fa\flat$ 、第4詩句へは $Ré\flat_m$ 、第5詩句へはLaを用い、吐息とも戦慄ともあじさせる。

譜例16



第3詩句では、伴奏部和音 $Si\flat_{m7-5}$   $Fa\flat_m$   $Fa\flat_7^3$   $Ré\flat$ 、第4詩句では変化記号が読みかえられ、 $Ré\flat_m = Do\sharp_m$   $La^1$   $Ré\sharp_{m7-5}$   $Mi$   $La$ と、微妙に陰影を変化させ見事に経過する。第5詩句では $La_7^2$   $Si\flat^1$   $Mim_{7-5}$   $Rém^1$   $Si\flat_{M7}$ 、第6詩句では $Solm^1 - +2$   $Lam_7$ を経て主和音 $Ré\flat$ になんなく戻る。同詩句第7音節から伴奏高音部に、第3曲C部への接続句を思い出させる、ゆるやかなジグザグ音型下降旋律が、 $Ré\flat -7$   $Fa_{dim.7}/sol\flat$   $Sol\flat$   $Do\flat_7$   $Si\flat\flat/dob$ 上に用いられ、B部へ接続する（譜例17）。

譜例17



B部第7詩句（第2詩節）では、 $Si\flat\flat/dob$   $Do\flat_7$   $La\flat_m^1$   $Sol\flat_m^3$   $La\flat_7^2$   $La\flat_7^2 -^3$   $Mi_{aug.} +2$   $Do\sharp_m^1$   $Sol\sharp_{dim}/mi$   $La_7$ 上に、歌が第iii音fa、第vi音si、第vii音doを半音下げ、弱く涼しげにつぶやかれる。同詩句第7音節では、再び伴奏高音部にsiから1オクターブ・ジグザグ音型旋律下降が接続現れる。第8詩句は $Do_7/ré$   $Ré^7$   $Sim^1$   $Lam_7^3$   $Ré_7/sol$   $Do\flat_7^2$ 上に順次上行で歌われ、同音句第7音節に伴奏高音部が、réからジグザグ音型断片で下降する。第9詩句は $Do\flat_7^3$   $La\flat$   $Dom^1$   $La\flat_7$   $Sol\flat^1$   $Mi\flat_m$ 上に、第10詩句は $La\flat$   $Mi\flat_m$   $Soldim^1$   $Ré^2$   $Si\flat_7^3$   $Mi\flat_7/lab$   $Ré\flat^2$   $Mi\flat_m$   $La\flat_7$   $Sol\flat/lab$   $Mi\flat_m$ 上に、第11詩句は $La\flat_m$   $Fa\flat^1$   $Ré\flat_m$   $Sol\flat$   $Ré\flat_7/sol\flat$   $Sol\flat$   $Dom_{7-5}$ 上に、第12句 $Sol\flat_{M7}$   $La\flat^2$   $Dom_{7-5}$   $Ré\flat^2$   $Si\flat_{m7-5}$   $Fa\flat$   $La\flat_7$ に歌われる。

C部第3詩節前半3詩句は、伴奏部がアルペジオ音型に変わる。第13詩句では伴奏部和音 $Ré\flat_m$   $Ré\flat_m/sol\flat$ 、 $Sol\flat_7$ 、第14詩句に $Ré\flat_{dim}^2$   $Ré\flat_m^2 -^2$   $-^1$ をくり返す。歌が $Sol\flat_{aug.}$   $Mi\flat_m^1$ 上に、第2曲B部の伴奏高音部に用いられた3連音符を含む旋律で表現され、また伴奏高音部が6度上で従うように奏される（譜例18）。

## 5. 「それは恍惚」 C est l'extase

## 詩5

C'EST l'extase langoureuse,  
C'est la fatigue amoureuse,  
C'est tous les frissons des, bois  
Parmi l'étreinte des brises,  
C'est, vers les ramures grises,  
Le chœur des petites voix.

Ô le frêle et frais murmure !  
Cela gazouille et susurre,  
Cela ressemble au cri<sup>※</sup> doux  
Que l'herbe agitée expire...  
Tu dirais, sous l'eau qui vire,  
Le roulis sourd des cailloux.

Cette âme qui se lamente  
En cette plainte dormante  
C'est la nôtre, n'est-ce pas?  
La mienne, dis, et la tienne,  
Dont s'exhale l'humble antienne  
Par ce tiède soir, tout bas ?

それは物憂げな恍惚,  
それは恋の疲れ,  
それは森の全ての戦慄  
そせ風の抱擁に,  
それは, 灰色の枝枝へ,  
小さな声の合唱.

おお, か弱く爽やかなざわめき!  
それは囁き呟く.  
それは優しい叫びに似ている  
波立つ草が息絶えるように...  
君は言うだろう, 流れる水に,  
小石の無声の横揺れに

その魂は悲しむ  
そのまどろむ嘆きに  
それは私たちのですね?  
私のもの, そしてあなたのものです,  
その慎しい交誦が昇天する  
この暖かい夕べに, 低い声で?

※ bruit に変更

この詩は第3曲と同じ詩集の「忘れられた小唄」Ariettes oubliées、9詩第1番。詩の構成は3詩節、1詩節は6詩句le sixainの二重3行詩形、詩句は7音綴り、脚韻は女性韻2行の平韻と男性韻1行aabccbである。

## 脚韻5

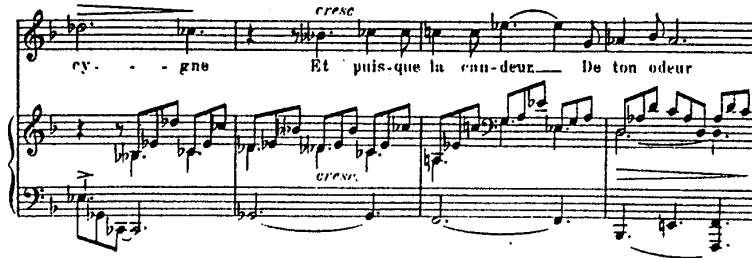
第一詩節	langoureuse,	a. f	第二	murmure !	第三	lamente
	amoureuse,	a. f		susurre,		dormante
	bois	b. m		doux		pas?
	brises,	c. f		expire...		tienne,
	grises,	c. f		vire,		antienne
	voix.	b. m		cailloux.		bas?

曲はAdagio non troppo, 変二長調, 3/4拍子, 52小節。曲の構成は3部—A部(第1詩節)、B部(第2詩節)、C部(第3詩節)である。

終始伴奏内声部が十六分音符の切分音 syncope で細かくリズムを刻む。A部主和音 Ré<sup>b</sup> 上に第1

第9, 10詩句(第3詩節)では、伴奏和音  $Fa\sharp_{dim7}^2$   $Sol\flat^1$  を反復し、 $Do\flat_9$  上で歌われる。更に第11, 12詩句では、変化記号を多用し  $Mi\flat_{m7-5}^1$   $Mi\flat_{dim7}^1$   $Do\flat^2$   $Fa_7$   $-+2$   $Si\flat_7$   $La_{aug+4}$   $Ré_7^1$  上に、「あどけなさ」candeurを強調し歌われる(譜例14)。

譜例14



第13~15詩句(第3詩節)では、伴奏和音  $Si_7^2$   $Sol\sharp_m$   $La_m7$   $Ré_{m7}/sol$ ,  $Si\flat_{do}$   $Lam^1$   $Solm^1$   $Mi_7^2$ ,  $Ré_{m7}^3$   $Fa_{m7}^3$   $Sol_7^2$   $La$  上に、第16詩句ではアクセントをつけた  $Do_{aug}^1$   $Do\sharp_m$  上に、「調べと香り」tons et parfums 引き延ばし歌わせる(譜例15)。更にバルカロール・ジグザグ下降旋律が嬰ハ短調・ré旋法で、 $La\sharp_{m7+2}^3$   $Fa\sharp_{7+2}^2$  上に再び現れる。

譜例15



第17詩句(第5詩節)では、 $Fa\sharp^2$   $Mi_7+2^2$   $Si\flat_7$  上にバルカロールのリズムが続き、第18詩句では  $Mi_7^2$   $Ré_m^2$   $Sol\sharp_{dim7}$  上に、前奏伴奏高音部が再現されるが、第19詩句では  $Fa_{+2}^1$   $Si\flat_m$   $La_7$   $Si\flat_{m1}$   $Mi_{dim7}$  と変化する。更に伴奏和音が  $Fa$   $La_7$   $Ré_m$  と継ぎ、第20詩句では  $Ré_{7+2}$   $Si\flat_{m7}^1$   $Mi_{m7-5}^3$  上に、「そうありますように」Ainsi soit-il と歌われ、長3度和音  $Ré$  で不完全終止する。

## 脚韻 4

第一詩節	barcarolles, a. f	第二	étrange	第三	insigne	第四	être,	第五	cadences,
	paroles, a. f		dérange		cygne,		pénètre,		correspondances
	yeux, b. m		horizon		candeur		défunts,		subtil,
	cieux, b. m		raison,		odeur		parfums,		soit-il!

曲は Andantino, ニ短調, 9/8 拍子, 71 小節。作曲者自身「第 4 曲はぼんやりしていて、風変わりだ」<sup>7</sup> と言うように、この曲集中でもっとも形式がはっきりしない。歌伴奏がバルカロールのリズムで旋法的に絡みあい受けつぎあう。

前奏 4 小節伴奏高音部の旋律が、第 vi 音 si $\flat$  を半音上げた ré 旋法で、なか空から舞い降りるように、緩やかにゆれるバルカロールのリズム・ジグザグ下降で始まる（譜例 12）。

譜例 12



第 1 詩句は前奏同様第 vi 音 si $\flat$  を半音上げ神秘を歌う。第 2 詩句は前句をほぼ反復する。その後伴奏部和音  $\text{Do}_7^{\sharp} \text{dim}_7^3 \text{Ré}^2 -_7 \text{Mi}_\flat \text{M}_7^1 \text{Fa}_{7+2} \text{Mi}_\flat +_4 / \text{si}_\flat \text{Fa}_{7+2}$  上に、高音部が第 ii 音 mi を半音下げ、第 iii 音 fa を半音上げ旋律を変形し現れる。歌第 3 詩句第 1, 2 音節「優しい人よ」Chère が mi $\flat$  1 オクターブ跳躍下降し、第 2 曲第 20 詩句（第 5 詩節）の第 5～7 音節「歌うだろう」Chantera を優しく喚起させる。同詩句第 3 音節からは、伴奏部和音  $\text{Mi}_\flat +_4^2 \text{Si}_\flat \text{Sol}_9 \text{Fa}_\sharp \text{dim}_7 / \text{sol} \text{Sol}_\sharp \text{dim}_7 / \text{do}$  上で歌われる。第 5 詩句第 4 音節（第 2 詩節）からは、偶数 C 拍子 Un poco più mosso に変わり、 $\text{Do}_7 \text{Fa}_7^1 - \text{M}_7^3 \text{Mi}_\flat \text{Sol}_m \text{Sol}_m$  を奏でる（譜例 13）。第 6 詩句第 3 音節から  $\text{Do}_7^3 \text{Fa}_7 \text{Mi}_\flat \text{Sol}_m^3 \text{La}_m^3 \text{La}_7$  と未解決七の和音を連続させる。同詩句第 6 音節で 9/8 拍子バルカロールのリズムに戻り、第 8 詩句まで  $\text{Ré}_m \text{La}_m \text{Sol}_7^2 \text{La}_7^1$  上に、歌伴奏高音部ともユニゾン ré 旋法ジグザグ音型旋律で下降戻る。

譜例 13



譜例11



# 4. 「クリメーヌに」 À Clymène

## 詩4

MYSTIQUES barcarolles,  
Romances sans paroles,  
Chère, puisque tes yeux,  
Couleur des cieux,

Puisque ta voix, étrange  
Vision qui dérange  
Et trouble l'horizon  
De ma raison,

Puisque l'arôme insigne  
De ta pâleur de cygne,  
Et puisque la candeur  
De ton odeur,

Ah ! puisque\* tout ton être,  
Musique qui pénètre,  
Nimbés d'anges défunts,  
Tons et parfums,

A, sur d'âmes cadences,  
En ses correspondances  
Induit mon cœur subtil,  
Ainsi soit-il !

神秘的な舟歌  
言葉なきロマンス  
優しい人よ、あなたの瞳は、  
空の色。

あなたの声は、妙なる  
惑わす幻  
水平線をかき乱す  
私の理性の、

この上ない薫りの  
白鳥のような青白さ、  
そのあどけなさの  
君の香り、

ああ！あなたの存在全てが、  
しみ透る音楽、  
亡くなった天使の輪光、  
調べと香り、

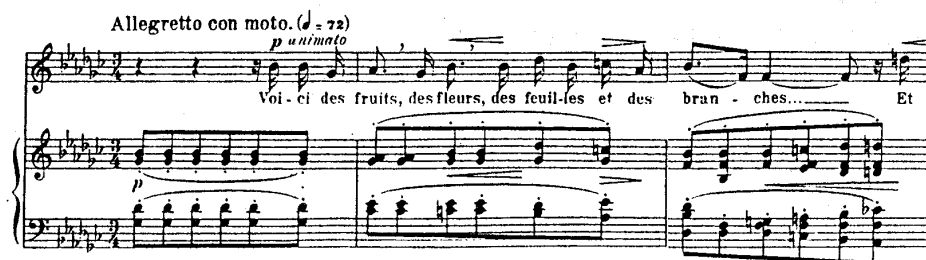
優しい韻律に、  
諸々の交歓に  
私のか弱い心を導く、  
どうぞそうなりますように！

※ pour que に変更

この詩は第1, 2曲と同じ詩集の第16番。詩の構成は5詩節、1詩節は4詩句、詩句は4つが等韻律でない、結句のついた4行詩 quatrain à clausule、6音綴り3行と4音綴り1行である。脚韻は女性韻と男性韻の平韻 rime plateである。

は第iv音do $\flat$ を半音下げ、fa旋法のジグザグ音型断片を含んで、生き生きと感動的に、息もはづむばかりに表現される（譜例9）。

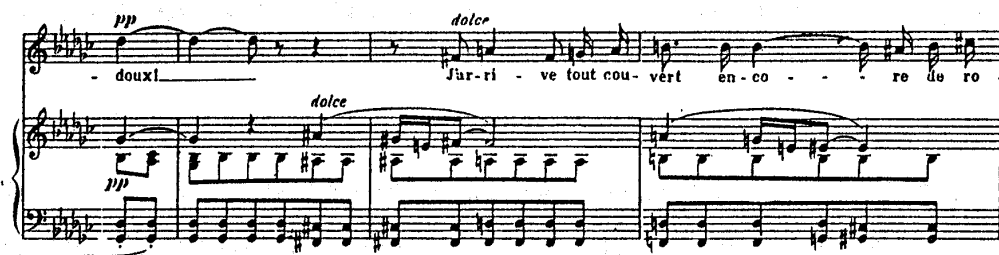
## 譜例9



同詩句第10音節からは、偽終止  $\text{La } \flat_7 \text{ Si } \flat \text{ m}^1$ ,  $\text{Sol m}^2_{7-5}$   $\text{Fa}^2_7 \text{ Si } \flat \text{ m}$   $\text{Ré dim}_7 \text{ Mi } \flat^1$ と細かくカデンツを第2詩句へつなぐ。第3詩句では、第vii音faを半音下げた。sol旋法を用いる。更に同句第6音節から第4詩句へは、高音部が詩句律動にあわせ、リズム  $\text{♩} \text{♩} \text{♩}$  を奏す。

B部は原調の主和音が、異名同音和音  $\text{Fa}^\sharp$ へ経過的に転じ、歌第5, 6詩句の間、変化記号を巧みに使い、 $\text{Sol } \flat = \text{Fa}^\sharp -_9 \text{Ré}^1 \text{Si m}^2_{7-5} \text{Sol}^7 \text{Do}^\sharp_{7-5} \text{Fa}^\sharp -_9 \text{Ré}^1 \text{Fa}_9 \text{Sol m}_7 \text{Mi dim}_7 / \text{La } \flat \text{Ré } \flat_9 \text{Mi } \flat \text{ m}_7 \text{Do } \flat^1_{\text{M}7} -^3_{-7} \text{Sol } \flat^1_{\text{M}7} \text{La } \flat_7 \text{Si } \flat^3_7 \text{Ré m}_{7-5} \text{Si } \flat^3_7 \text{La } \flat^7 -_{+4}$ と刻々と変わる和音に、伴奏高音部が前リズム・ジグザグ音型断片の連続を dolce で、表表情を変え奏される（譜例10）。第8詩句第10音節からは同音型が再び3度連鎖し、fa から ré へ1オクターブ下降し、揺らめきながら原調に戻る。

## 譜例10



C部第9詩句（第3詩節）は、第1詩句旋律を变形し再現する。歌第10詩句第8音節から「あなたの最後の口づけ」 $\text{vos derniers baisers}$ は、和音  $\text{Do } \flat \text{ m}_7 \text{Sol } \flat \text{ m}^3_7 \text{La } \flat^2_7$ 上に、第11詩句「心地よい嵐から鎮めさせてください」は、変記号を嬰記号に取り替え、伴奏和音  $\text{La}^1 \text{Ré}^\sharp \text{ m}_{7-5} \text{Do}^\sharp \text{ m}^1 \text{La} \text{Fa}^\sharp \text{ m}^1 \text{Do}^\sharp \text{ dim}^1 \text{Fa}^\sharp \text{ m}_{7+4} \text{Sol } \flat$ 上に、高まった心を徐々に落ちつける（譜例11）。第12詩句では伴奏が、主音  $\text{sol } \flat$ の保続音上に  $\text{Mi } \flat \text{ m}^1_7 \text{Fa}^\sharp \text{ m}_{7+4} \text{Mi } \flat_7 -^1 \text{Sol } \flat$ を高音部にジグザグ断片が揺れ、不完全終止する。



## 譜例 8



## 3. 「グリーン」 Green

## 詩 3

Voici des fruits, des fleurs, des feuilles et des branches  
Et puis voici mon coeur qui ne bat que pour vous.  
Ne le déchirez pas avec vos deux mains blanches  
Et qu'a vos yeux si beaux l'humble présent soit doux.

J'arrive tout couvert encore de rosée  
Que le vent du matin vient glacer à mon front.  
Souffrez que ma fatigue à vos pieds reposée  
Rêve des chers instants qui la délasseront.

Sur votre jeune sein laissez rouler ma tête  
Toute sonore encor de vos derniers baisers;  
Laissez-la s'apaiser de la bonne tempête,  
Et que je dorme un peu puisque vous reposez.

ここに果実、花々、木の葉と小枝があります  
それからあなたのみに高鳴る心があります  
あなたの白い手でそれを引き裂かないで  
あなたの美しい瞳に慎ましい贈り物が優しくあれ。

私は露に覆われているうちに着く  
朝の風が私の額に露を凍らせる。  
私の疲れがあなたの足下に憩うのを許して下さい  
良い時のそれが許され夢見ることを。

あなたの若い胸に頭を置かせて  
あなたの最後の口づけのなお高鳴る；  
その心地よい嵐から鎮めさせてください。  
そして暫しまどろみたい あなたが憩うなら

この詩は詩集「言葉なきロマンス」Romances sans Parolesの「水彩画」Aquarelles<sub>1874</sub>, 6詩第1番。  
詩の構成は3詩節、1詩節は4詩句、詩句は12音綴りalexandrin、脚韻は女性韻と男性韻の交互韻  
rime croiséeである。

## 脚韻 3.

第一詩節	branches	a. f	第二詩節	rosée	第三詩節	tête
	vous.	b. m		front.		baisers;
	blanches	a. f		reposée		tempête,
	doux.	b. m		délasseront.		reposez.

曲はAllegretto con moto, 変ト長調, 3/4拍子, 37小節。曲の構成は3部-A部(第1詩節)、B部(第2詩節)、C部(第3詩節)である。

A部は前奏ピアノ部が、鼓動を刻むように八分音符の変ト長調主和音Sol $\flat$ で始まる。歌第1詩句

## 譜例5

Andante moderato. (♩ = 63) *dolce*

Cul - - - mes dans le de - mi - jour

B部、第9, 10詩句(第2詩節)では、伴奏が主和音 Mib の第iii音 sol, 第vii音 réを半音下げ、Mi  $b_m - 7$  La $_7$ 下屬和音機能の穏やかなアルペジオ下降型に、歌が *dolcissimo* の3連音符をともなって、ppでひそやかに表現される(譜例6)。第11, 12詩句では、Do $_7^2$  Ré $_7^2$  Sib $_9$  Solb $_9^1$  Dob $_{M7}$  Fa $_9$  Sib $_{m7}$  による、七の和音未解決連続がカデンツを引き延ばし、企てをあいまいにする。更に同第12詩句第7音節 *dessein* に伴奏高音部が3連音符を用い、歌第9, 10詩句の旋律を変え、陰影を与え発展させる(譜例7)。

## 譜例6

*dolcissimo* *pp*

Fer - me tes yeux à de-mi,

## 譜例7

*dolce* *pp*

- sein. Lais - - - sons-nous per -

第13詩句(第4詩節)では Réb $_7^3$  Sib $_{m2}$  Réb $_7$  Sib $_{m7}$ 上に、伴奏高音部旋律、譜例6を反復する。第14詩句は Mi $b_7^3$  Réb $_7^3 - 2$  Dob $^2$  Fam $_{7-5}$  Sib $_{m7}^2 - 5$ を経て、更に第15詩句は Fam $_{7-5}^3$  Solb $_{7-5}^2$  Fam $_{7-5}^1$  Sib $_{m7-5}^2$ 上に歌われ、高音部ジグザグ音型旋律が第ii音 fa, 第iii音 sol, 第vii音 réを半音下げ変形する。再度第16詩句では、同音型をともなってゆるやかに下降し、夕べの忍び寄ることを暗示する。

C部は厳かに原調のⅢ=Solm $^1$ が奏され、第17, 18詩句(第5詩節)が第1, 2詩句の旋律を変形借用し再現される。更に第18詩句第7節から第19詩句では、伴奏高音部第6小節の旋律断片が、小夜鳴鳥を象徴するかのように3連音符を含め用い、夜をさらに深く暗示する。「私たちの絶望の声を、小夜鳴鳥が歌うだろう」と。後奏伴奏が原調主和音 Mibにくり返し付加4度を半音上げ、付加6度を半音下げ用い、フォーレ特有の終止を準備する(譜例8)。

Chasse à jamais tout dessein.

追い出さない全ての企てを永遠に。

Laissons-nous persuader  
 Au souffle berceur et doux  
 Qui vient à tes pieds rider  
 Les ondes de gazon<sup>※2</sup> roux.

身をまかせよう  
 慰る甘い吐息に  
 それは君の足下に忍び寄る  
 茶色の芝のさざ波。

Et quand, solennel, le soir  
 Des chênes noirs tombera,  
 Voix de notre désespoir,  
 Le rossignol chantera.

そして厳かに、夕べの時が  
 暗い檜の木に訪れる、  
 私たちの絶望の声を、  
 小夜鳴鳥が歌うだろう。

※1 Mèlons に変更

※2 des gazons に変更

この詩は第1曲と同じ詩集の第21番。詩の構成は5詩節、1詩節は4詩句、詩句は7音綴り、脚韻は全て男性韻 rime masculine の各詩句交互に押韻される。第1, 2詩節にくり返し発音される [ɔ], [ɜ] が半音階 assonance の効果で、「もののうい気だるさ」を象徴する。また第3詩節では [te], [tɜ] が反復される畳韻法 allitération を用いている。更に第5詩節では [swa:r], [nwa:r], [vwa:r], [pwa:r] の二重母音 diphtongue を重ね、半階音が階調 harmonie を醸しだし、言葉の意味を音声に内在させる。

## 脚韻2

第一詩節	-jour a. m	第二	coeurs	第三	demi,	第四	persuader	第五	soir
	font, b. m		extasiés,		sein,		doux		tombera,
	amour a. m		langueurs		endormi		rider		désespoirs.
	profond. b. m		arbousiers.		dessein.		roux		chantera

曲は Andante moderato, 変ホ長調, C拍子, 47小節。曲の構成は3部—A部(第1, 2詩節)、B部(第3, 4詩節)、C部(第5詩節)である。

A部は前奏1小節を、伴奏部の穏やかな十六分音符アルペジオ主和音 Mi ♭で始める。歌第1詩句は伴奏部アルペジオに秘められた音を拾う(譜例5)。第2詩句では第vii音 réを半音下げ、経過的下属調S進行 Mi ♭ M7 Mi ♭7に思わせる。歌は第3詩句から第6詩句の母音 [ɔ], [ɔ], 鼻母音 [ɜ] の特質をいかし、伴奏部アルペジオから拾う。第2詩句終了から第7詩句終わりの伴奏高音部は、mi ♭から1オクターブ上行、再度 mi ♭から fa ♭へ第ii音 fa, 第iii音 sol, 第vi音 doを半音下げ上行し、「漠然とした物憂さ」 vague langueur を柔らかに静かに醸し出す。

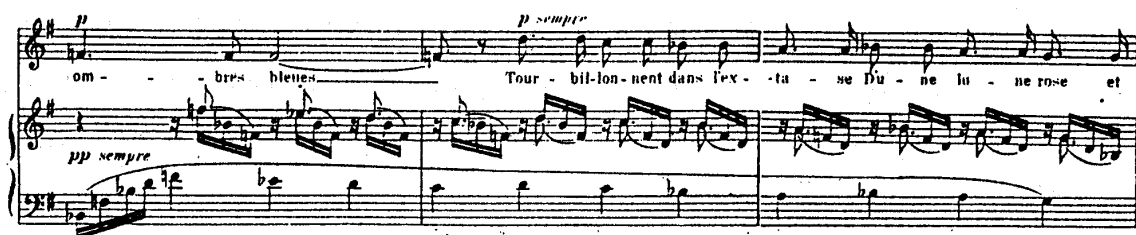
長い服」 *longues robes à queues* を暗示する（譜例3）。更に第11, 12詩句では歌ピアノ部とも第iii音 si, 第vii音 fa #を半音下げ、原調の同主短調で雰囲気をもたせる。

譜例3



第13, 14詩句（第4詩節）では、同主短調の平行長調変口に転じ、第9小節母音歌唱の後半断片が伴奏低音部に、リズムを拡張し四分音符を用い、表情を和らげ旋回蛇行しながら下降する（譜例4）。再び第15, 16詩句では低音部に第vii音 la を半音下げ、母音歌唱断片が用いられ、「そよ風の戦慄」 *les frissons de brise* を *sempre pp* で歌わせ心地よさを誘う。更に伴奏高音部に母音歌唱が *sol* 旋法で弧を描き、マンドリンの音型A部へ弾け、再現部を印象づける。

譜例4



## 2. 「ひそやかに」 *En sourdine*

### 詩2

CALMES dans le demi-jour  
Que les branches hautes font,  
Pénétrons bien notre amour  
De ce silence profond.

薄暮の静けさは  
高い枝枝が作る、  
私たちの愛をしたそう  
この深い沈黙に。

Fondons<sup>\*1</sup> nos âmes, nos coeurs  
Et nos sens extasiés,  
Parmi les vagues langueurs  
Des pins et des arbousiers.

溶け合わせよう魂を、心を  
そしてうっとりとした感覚を、  
漠然とした物憂さに  
松の木と山桃の木立の。

Ferme tes yeux à demi,  
Croise tes bras sur ton sein,  
Et de ton coeur endormi

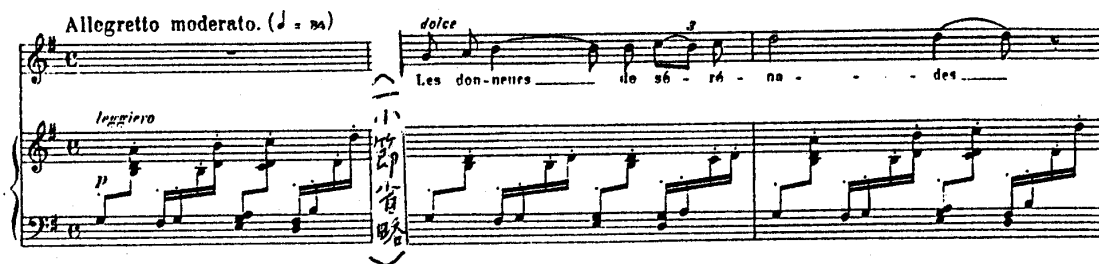
瞳を半ば閉じなさい、  
腕を胸に組みなさい、  
そしてまどろむ心から

G. フォーレの歌曲ーヴェニスの上の歌 作品58-1~5

曲は Allegretto moderato, C 拍子, 39小節。曲の構成は 3 部ー A 部 (第 1, 2 詩節)、B 部 (第 3, 4 詩節)、A 部 (第 1 詩節反復) からなる。

A 部は前奏 2 小節伴奏ピアノ部が、マンドリンの撥弦を思わせるスタッカート・アルペジオ音型で、躍動軽快に始まる。伴奏低音部がオスティナート風に、主音 sol から経過音を用い属音 ré へ順次下降する。その間高音部は主音から属音へ順次上行する。歌第 1、2 詩句は高音部をなぞり 3 連音符を混ぜながら、のびやかな線を描く (譜例 1)。

譜例 1



第 3 詩句第 5, 6 音節では、伴奏部が和音 La<sub>7</sub> を用い二調に転ずるかに思わせながら、第 iii 音 si 上の準固有和音 Si、減七音 Mi # dim<sub>7</sub> を奏でる。その間歌は第 4 詩句の律動強調音 accent rythmique 第 7 音節に、原調を半音下げた嬰へ長調の長く延ばされた母音歌唱 vocalise で、夕べのそよ風を暗示させる。更に母音歌唱は伴奏高音部に継続され、平行短調嬰二の旋律的と自然的短音階で、低音部の和音 Ré #<sup>1</sup> Fa # aug<sub>1</sub>, Ré # Si 上にニュアンスを変え奏される。突然音階の頂点が原調のト長調に戻る (譜例 2)。

譜例 2



第 5 詩句 (第 2 詩節) 第 6, 7 音節「アメント」Amint では、第 2 詩句「美しい聞き手たち」Et les belles écouteuses を、思い出させる旋律がずらされ伴奏高音部に反復用いられる。第 7 詩句は句跨ぎ enjambement が行われるが、作曲者は休符を用いず、詩人の意図を忠実に行っている。第 8 詩句第 7 音節では、第 4 詩句第 7 音節同様陰影をかえ、mi 旋法で母音歌唱させる。更に伴奏高音部が母音歌唱旋律を繋ぎ、Ré<sub>7</sub> Fa # m<sub>7</sub> Ré<sup>2</sup> -<sub>7</sub> 上に表情を変える。

B 部、第 9 詩句 (第 3 詩節) では効果的に用いられた流音の特性をいかした子音 [l] に、歌が第 10 詩句へ ré から、3 連音符を含め軽やかに 1 オクターブ下降する。その間伴奏和音 Mi #<sup>1</sup> Fa<sup>1</sup> - M<sub>7</sub> Si<sup>2</sup> Do<sup>2</sup> Ré<sup>2</sup> Sol<sub>m</sub><sup>1</sup>、アルペジオのスタッカートとレガートの組み合わせで、「絹の」soie, 「引裾の

レは、ヴェルレーヌの5つの詩に作曲着手する。しかしポリニャック公爵夫人によると「彼はコーヒーが大好きで、彼女の提供した静かな部屋で仕事をせず、騒がしいヴェニスで活気に溢れたピアッア広場、カフェ・フロリアンの大理石小テーブルで仕事をした」<sup>6</sup>と記す。実際は第1番「マンドリン」を完成したが、他の曲はいくつかの輪郭をスケッチしたのみで、パリに持ち帰る。その後同年9月、5つからなる曲集として完成出版される。この曲集タイトルは作曲着手した場所にちなんで、「ヴェニスの五つの歌」Cinq mélodies de Veniseと名づけられた。なおこの曲集はポリニャック公爵夫人に献呈された。

## 1. 「マンドリン」 Mandoline

### 詩1

LES donneurs de sérénades  
Et les belles écouteuses  
Échangent des propos fades  
Sous les ramures chanteuses.

C'est Tircis et c'est Aminte,  
Et c'est l'éternel Clitandre,  
Et c'est Damis qui pour mainte  
Cruelle fait\* maint vers tendre.

Leurs courtes vestes de soie,  
Leurs longues robes à queues,  
Leur élégance, leur joie  
Et leurs molles ombres bleues

Tourbillonnent dans l'extase  
D'une lune rose et grise,  
Et la mandoline jase  
Parmi les frissons de brise.

セレナード弾きたちと  
それに美しき聞き手たち  
味気ない話題を取り交わす  
歌い騒ぐ木々の下。

それはチルシスとアマント、  
そして永遠のクリタンドル、  
そしてダミス、つれない恋人に  
数々の優しい歌を作る。

彼らの絹の短い上着、  
彼女たちの引裾の長い服、  
その優雅さ、喜びと  
彼らの青く柔らかな影は

恍惚と旋回する  
桃灰色の月に、  
マンドリンは騒ぐ  
そよ風の戦慄の最中に。

※フォーレは fit に変更

この詩は詩集「華やかな宴」Fêtes Galantes. 1869 の22詩第15番。詩の構成は4詩節、1詩節は4詩句、詩句は7音綴りheptasyllabe、奇数脚Impair、脚韻は全て女性韻[ə] rime féminineの優柔な響きをもつ。更に脚韻の1つ前第6音節が同じ音をもつ、より豊かな完全押韻rime richeである。

### 脚韻1.

第一詩節  
 sérénades a. f  
 écouteuses b. f  
 fades a. f  
 chanteuses. b. f

第二  
 Aminte,  
 Clitandre,  
 mainte  
 tendre.

第三  
 soie  
 queues,  
 joie  
 bleues

第四  
 extase  
 grise.  
 jase  
 brise.

## G. フォーレの歌曲

### ——ヴェニス五つの歌 作品58—1～5

下 山 進

Les Mélodies de G. Fauré

—— Cinq Mélodies de Venise Op. 58—1～5

Susumu Shimoyama

## I. はじめに

G. フォーレは、1887年(41歳)頃、文学的助言者モンテスキュー<sup>1</sup>の影響で詩の選択方向を変えた。この時までに作曲された約40の歌曲は、V. ユーゴ<sup>1802-85</sup>、T. ゴーチエ<sup>1811-72</sup>、L. de リール<sup>1818-94</sup>など、ロマン派・高踏派の詩である。フォーレが初めてヴェルレーヌ<sup>1844-96</sup>の詩に出会ったのは、モンテスキューの書斎であり、彼はヴェルレーヌの詩に直ちに魅了された。以後7年間に彼はヴェルレーヌの詩に17作曲した。それらは、「月の光」Clair de Lune, Op. 46-2<sup>1887</sup>、「憂うつ」Spleen, Op. 51-3<sup>1888</sup>、歌曲集「ヴェニス五つの歌」Cinq mélodies de Venise, Op. 58-1～5<sup>1891</sup> 1. 「マンドリン」Mandoline, 2. 「ひそやかに」En sourdine, 3. 「グリーン」Green, 4. 「クリメーヌに」À Clymène, 5. 「それは恍惚」C'est L'extase、歌曲集「優しい歌」La Bonne Chanson, Op. 61-1～9<sup>1892-94</sup>、「牢獄」Prison, Op. 83-1<sup>1890</sup>である。

本論では、上記の17曲のうち「ヴェニス五つの歌」をとり上げ、各曲を分析するとともに、歌曲集としての纏まりをも述べる。

なお今回は比較分析を省略するが、ドビッシューも4曲—「マンドリン」<sup>1882</sup>、「ひそやかに」<sup>1891</sup>(歌曲集「華やかな宴」Fêtes galantes I<sup>er</sup> recueil, 3曲の第1番)、「グリーン」、「それはものうげな恍惚」<sup>1885-88</sup>(歌曲集「忘れられた小唄」Ariettes oubliéesに改題<sup>1893</sup>, 5曲の第1番)を作曲している。

## II. 「ヴェニス五つの歌」作品58—1～5

フォーレはポリニャック公爵夫人<sup>2</sup>の企画招待に、友人デュエ夫妻<sup>3</sup>、ジェルダン夫妻<sup>4</sup>とともに、1891年5月18日よりほぼ1カ月、イタリア・ヴェニスに滞在する。フォーレは滞在について「…おお！ヴェニス、ヴェニス、…実際のところ…、素晴らしい休暇でした。いままでこんな風に過ごしたことはない程、目は素敵なものを見、頭は魅惑的な思い出で一杯です…」<sup>5</sup>と記している。その間フォー